1B03 4081

レンジフード 取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

壁スイッチ仕様・電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の 2 つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

- 分解・修理・改造禁止：● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 取付注意：● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
- 取付注意：● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを取り付ける：● アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 取付注意：● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 取付注意：● 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- 埋込禁止：● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取付注意：● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 使用禁止：● 交流 100 V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

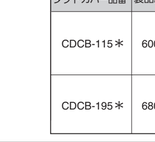
- 取付注意：● 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠ 注 意

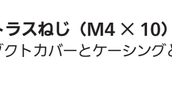
- 手袋をする：● 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

- 取扱注意：● 作業は 2 人以上でおこなうこと
  製品は約 30kg の重さがあります

- 取付注意：● ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



- 使用禁止：● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります
- 取付禁止：● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
- 取付注意：● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



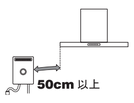
- 接触禁止：● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。
  排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品組立時のねじ取り付けの際は、インパクトドライバー等できつく締めすぎないでください。ねじ山を損傷するおそれがあります。
  （推奨締め付けトルク M4: 1.2 － 1.6N・m、M5: 1.8 － 2.2N・m）
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。
  湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。
  火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- 分解・修理・改造禁止：● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 取付注意：● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取付注意：● 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- 埋込禁止：● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取付注意：● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

⚠ 注 意

- 手袋をする：● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

- 取付禁止：● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
- 取付注意：● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

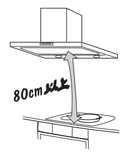
1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

製品質量	30.0 kg

2 吊りボルトの設置
レンジフードの本体は M10 または M12（市販品）の吊りボルト 4 本を使用し、天井内の梁などへ取り付けます。
※吊りボルトは耐荷重 200kg ／本となるように取り付けてください。

3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

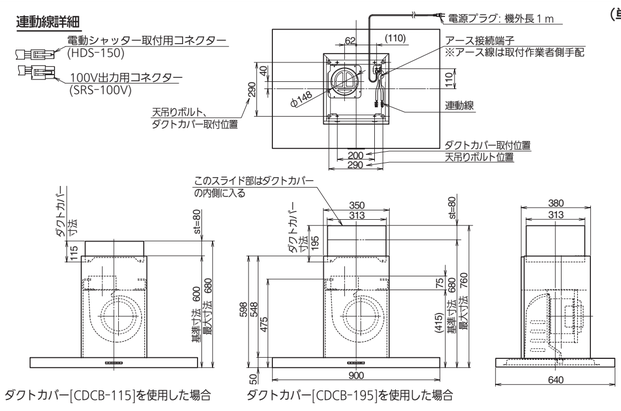
4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm 以上です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。



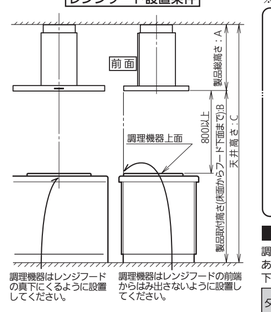
5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。
（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

製品寸法図

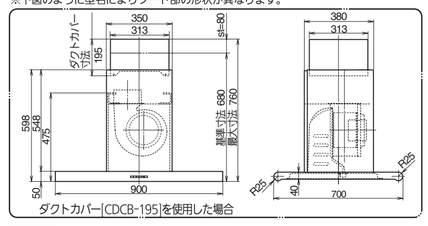
（単位：mm）



レンジフード設置条件



※下図のように型名によりフード部の形状が異なります。



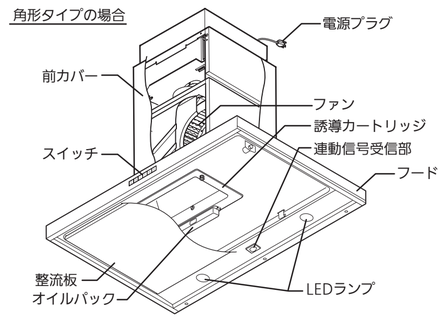
注 意

調理機器設置高さと天井高さの関係により、このレンジフードが設置できない場合があります。
下表の製品取付高さと天井高さから適切なダクトカバーを選択してください。

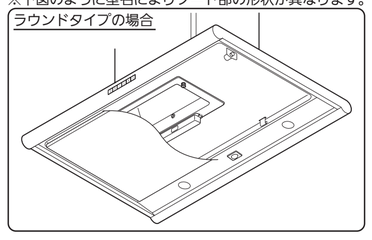
ダクトカバー品番	製品総高さ：A	設置寸法(例) 製品取付高さ：B	設置寸法(例) 天井高さ：C
CDCB-115＊	600~680	1600	2200~2280
		1650	2250~2330
		1700	2300~2380
		1750	2350~2430
		1800	2400~2480
CDCB-195＊	680~760	1600	2280~2360
		1650	2330~2410
		1700	2380~2460
		1750	2430~2510
		1800	2480~2560

※設置寸法は一例です。
左記以外の設置寸法の場合は、製品寸法図を参考にしてダクトカバーを選定・調整してください。
※ダクトカバー型名の「＊」には色記号が入ります。

各部のなまえ



※下図のように型名によりフード部の形状が異なります。



付属品

トラスねじ（M4 × 10）（4 本）
ダクトカバーとケーシングとの固定に使います。

ソフトテープ（1 本）
排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。

取り付けかた

本製品にはフード先端形状の違いにより、角形タイプとラウンドタイプの 2 種類があります。
本説明書は角形タイプで説明していますが、取付方法や操作方法は同じです。

1．付属品の確認

⚠ 注 意

- 手袋をする：● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

- 取扱注意：● 作業は 2 人以上でおこなうこと
  製品は 30kg の重さがあります

1 前カバーに固定テープで貼り付けられている取付説明書を取りはずします。

2 取付説明書が包装されているポリ袋から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
- フード前後に貼り付けられている保護用エアキャップはキズ・破損防止のため、お客様への引き渡しまではずさないでください。
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2．取付準備

⚠ 警 告

- 取付注意：● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 取付注意：● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
- 取付注意：● 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注 意

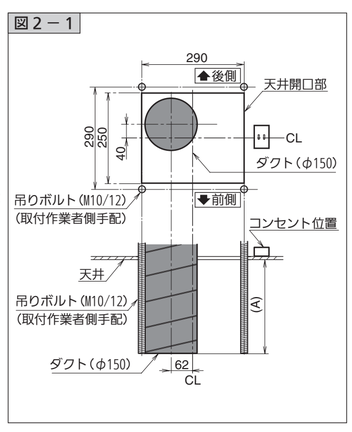
- 取付禁止：● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります
- 使用禁止：● 周囲温度が 40℃以上になる所には取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。
また、天井開口部近くの補強桟または野縁等に専用コンセントを設置してください。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットし、周囲を仕上げます。

3 M10 または M12 の吊りボルト（取付作業者側手配）を 4 本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは前後、左右とも 290mm です（製品寸法図参照）。

図 2 － 1



お願い
天井面からのダクトと吊りボルトの突き出し長さ (A) は、製品総高さ（範囲：600 － 760mm）により異なります。製品寸法図を参考にして、次式により算出してください。

ダクトと吊りボルトの突き出し長さ (A) ± 10 =「製品総高さ」－ 455

例）

製品総高さ	ダクトと吊りボルトの突き出し長さ (A)
600	145 ± 10
650	195 ± 10
700	245 ± 10
750	295 ± 10

（単位：mm）

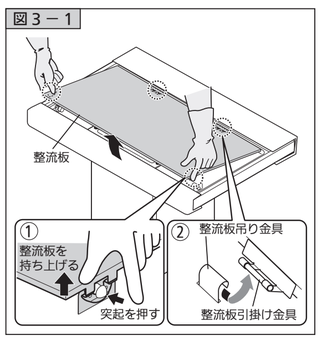
※「製品総高さ」寸法は、「使用するダクトカバー（別売部品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。製品寸法図欄のレンジフード設置条件を参考にして決定してください。

3．本体の準備

お願い
床面を傷つけないよう、保護シート等を敷いた上で作業をおこなってください。

1 整流板をはずします。（図 3 － 1）
※レンジフードを図のように整流板が上になるように置いて作業してください。
1）整流板を固定しているテープを取り除きます。
2）整流板の前側を固定している左右の突起を押し込みながら前側をゆっくりと持ち上げ、ロックをはずします。
3）整流板を開いた状態で、整流板吊り金具から取りはずします。

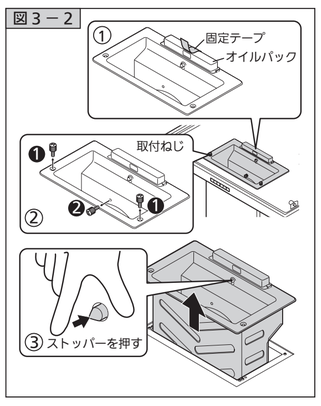
図 3 － 1



2 誘導カートリッジをはずします。（図 3 － 2）
1）オイルパックを固定しているテープを取り除きます。
2）取付ねじを右図 ❶、❷ の順番ではずします。
3）ストッパーを押しながらゆっくりと上へ引き出します。

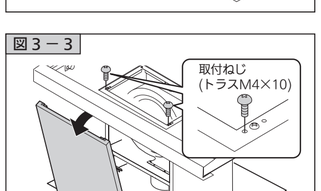
お願い
誘導カートリッジはキズをつけないよう、ゆっくりと引き出してください。

図 3 － 2



3 ケーシングの前カバー・後カバーをはずします
1）前カバーは取付ねじ（トラス M4 × 10）2 本をはずし、斜め上へずらしながら取りはずします。（図 3 － 3）

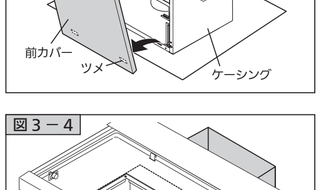
図 3 － 3



2）後カバーは取付ねじ（なべ M4 × 8）4 本をはずし、左右に少し広げるようにしながら後方へ取りはずします。（図 3 － 4）

お願い
取りはずしたねじは、「6．運転準備」にて再度使用しますのでなくさないでください。

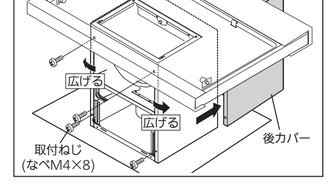
図 3 － 4



4 フードとケーシングを分離します。（図 3 － 5）
取付ねじ（トラス M5 × 12）4 本をはずします。

お願い
取りはずしたねじは「4．本体の取り付け」にて再度使用しますのでなくさないでください。

図 3 － 5



5 フードを取りはずします。
1）フードを前方へ 10mm 程スライドさせ、前側を持ち上げフードを開きます。（図 3 － 6）

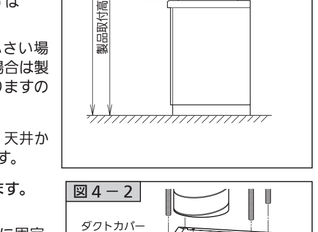
図 3 － 6

2）電気配線のコネクター 4 ヶ所をはずします。（図 3 － 7）

お願い
コネクターをはずす際は、ツメの部分を押しながら、まっすぐ引き抜いてください。無理に引っ張ったり、コードを持って引き抜くと断線するおそれがあります。

コネクターをはずす場合	ツメを押す → はずす

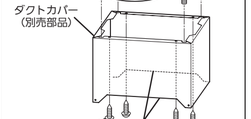
図 3 － 7



3）フード奥側の引掛け金具をはずしながらフードを上に持ち上げ、ケーシングからはずします。（図 3 － 7）

6 ソフトテープを貼り付けます。（図 3 － 8）
ファンユニットの天地を反転させ、排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。

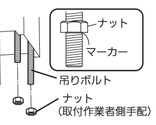
図 3 － 8



4．本体の取り付け

⚠ 注 意

- 取付注意：● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります



1 レンジフードの固定位置を決めます。（図 4 － 1）
1）右図を参考にして、次式によりマーカー位置 (X) の値を算出してください。
X =「製品総高さ」－ 475

※「製品総高さ」寸法は、「使用するダクトカバー（別売部品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。製品寸法図欄のレンジフード設置条件を参考にして決定してください。

例：製品取付高さが 1700mm、
天井高さが 2350mm の場合
（製品総高さ＝ 650mm）：
X ＝ 650 － 475 ＝ 175
天井からのマーカー位置 (X) は 175mm となります。

※マーカー位置が 125mm より小さい場合は取り付けできません。その場合は製品特注にて対応可能な場合がありますので、販売店にご相談ください。

図 4 － 1 （単位：mm）

2）吊りボルトにマジックペンなどで、天井から X の値の位置にマーカーをつけます。

2 ダクトカバー（別売部品）を取り付けます。（図 4 － 2）
ダクトカバーを座付ねじ 4 本で天井面に固定します。
座付ねじはダクトカバーに付属しています。

お願い
切り欠きのある面をレンジフード本体の前後方向にしてください。向きを間違えるとケーシングとの固定ができなくなります。

図 4 － 2

3 M10 または M12 のナット（取付作業者側手配）を吊りボルトのマーカー位置までねじ込みます。（図 4 － 3）

お願い
取付完了時、調理機器上面から本体下面まで 800mm 以上にならない場合は調節してください。

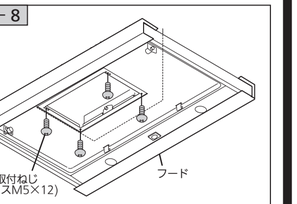
図 4 － 3

4 ケーシングを吊りボルトに固定します。（図 4 － 4）
1）ケーシングを持ち上げて 4 ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側から M10 または M12 のナット（取付作業者側手配）をしっかりと締め付けます。

お願い
ダクトに排気口を差し込みながらケーシングを取り付けてください。

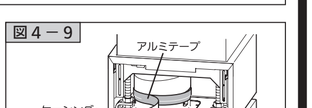
2）分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグを専用コンセントに差し込みます。

図 4 － 4



5 ダクトカバーとケーシングを固定します。（図 4 － 5）
付属品のトラスねじ（M4 × 10）4 本で前後各 2 ヶ所を固定します。

図 4 － 5



6 フードを取り付けます。（図 4 － 6）
1）フード奥側の金具をケーシングの引掛けねじに引っ掛けます。
2）コネクター 4 ヶ所を差し込みます。

図 4 － 6

お願い
- コネクターの接続は確実におこなってください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
- コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合せて確実にロックしてください。

コネクターを挿入する場合	奥まで挿入して突き当てる → 奥まで → 前後に動かしても抜けないこと	正しい差し込み方	誤った差し込み方

3）フード前側を水平になるまで持ち上げてからフードを後方にスライドさせ、フードの金具をケーシングの引掛けねじ 4 ヶ所に引っ掛けます。（図 4 － 7）

図 4 － 7

4）「3．本体の準備」の手順 **4** にてはずした取付ねじ（トラス M5 × 12）4 本で下から固定します。（図 4 － 8）

図 4 － 8

7 ダクト接合部へ風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこなってください。（図 4 － 9）

図 4 － 9

■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 4 － 10）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 4 － 10

裏面に続きます

1B03 4081

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

5．電気配線

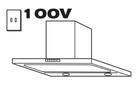
⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止

● 交流 100 V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



取付注意

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける

● アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

1 アース（D 種接地工事）を取ります。
※アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

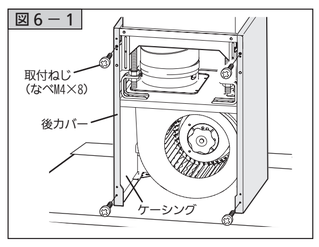
お願い
- 電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

6．運転準備

1 ケーシングに前カバー・後カバーを取り付けます。（図 6 － 1）

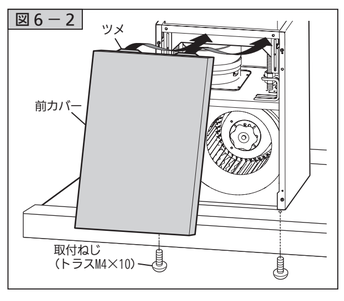
1）各部品が確実に組み立てられているか確認した後、ケーシングの後カバーを「3. 本体の準備」手順 ***3*** の 2）にてはずした取付ねじ（なべ M4 × 8）4 本で固定します。

図 6 － 1



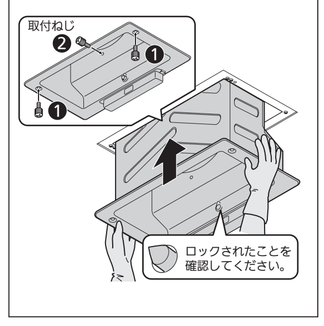
2）前カバーは上部のツメを引っ掛け、下側を取付ねじ（トラス M4 × 10）2 本で固定します。（図 6 － 2）

図 6 － 2



2 誘導カートリッジを取り付けます。（図 6 － 3）

図 6 － 3



1）誘導カートリッジを両手で持ち、開口部に差し入れます。
内側奥にあるストッパーで固定されるまで、まっすぐにゆっくりと差し込みます。
※誘導カートリッジがストッパーで確実に固定されたことを確認してください。

2）取付ねじを ❷ 、❶ の順番で固定します。

お願い
誘導カートリッジはゆっくりと差し込んでください。キズ・変形の原因になります。

3 整流板を取り付けます。
「3. 本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

7．試運転

⚠ 注 意

接触禁止

● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

8．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

［製造元］ 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
TEL 042(768)3754（営業部）